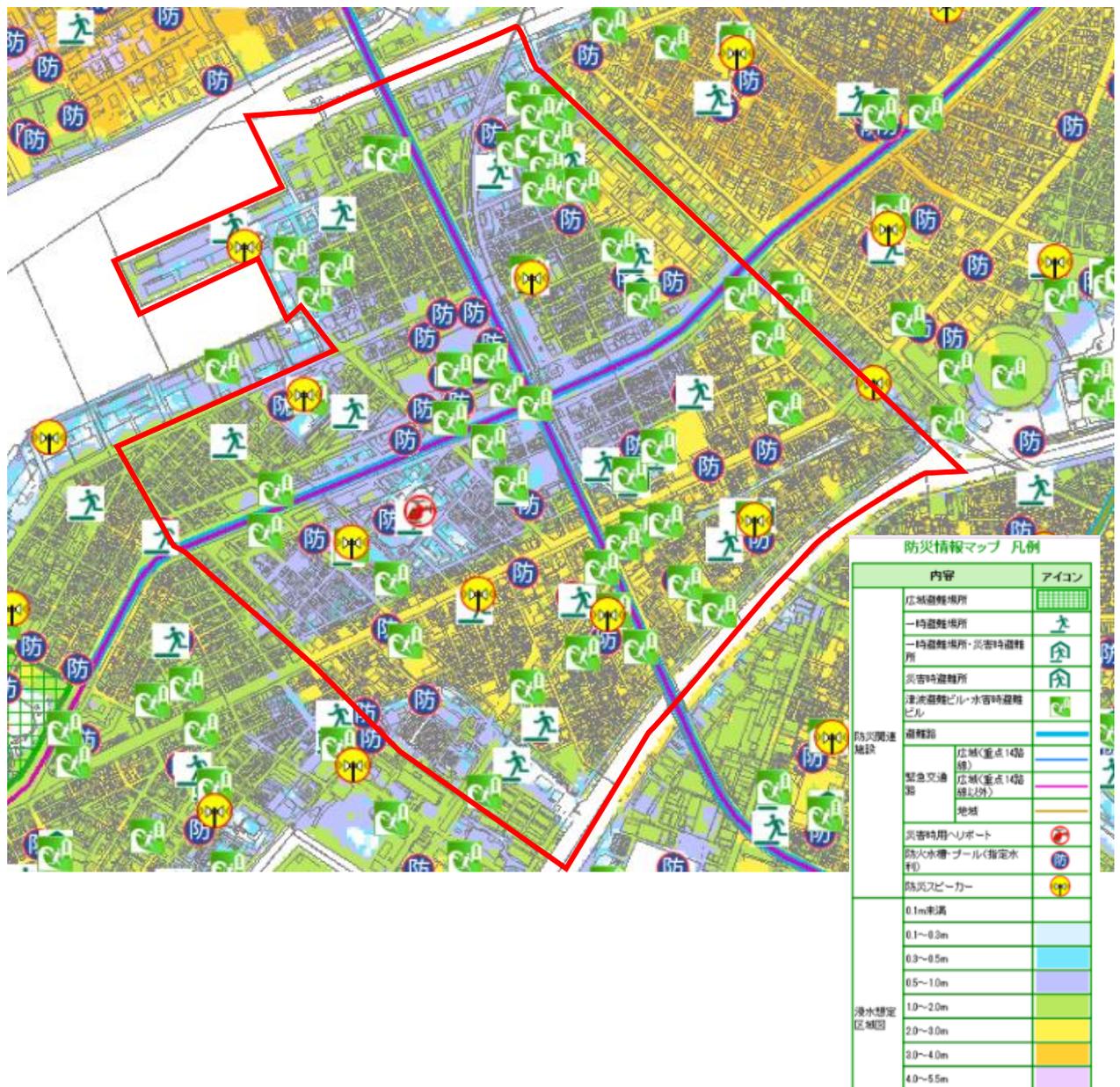


イベント名 (開催時期等)	主催	実施場所	イベント概要
繁栄ワイワイ市場 (第1土曜日開催)	繁栄商店街振興組 合	繁栄商店街	地域コミュニティの場づくり として、商店街以外の事 業者も参加し定期的に 開催
港区ふれあい音楽会 (9月開催)	港区ふれあい音楽会 実行委員会・港区役 所	大阪ベイトワ ーアトリウム	地域コミュニティの促進を 目的にしたイベント。区内 の高中小吹奏楽部が出 演する演奏会。
港区民文化のつどい (11月開催)	港区民文化のつどい 実行委員会・港区役 所	ゆめホーム 「ゆめ」かなえ る港区民セ ンター	地域コミュニティの促進を 目的にしたイベント。区内 で活動するサークル等が 参画し、作品展示や舞 台発表を実施。
春いちばんふれあいフェ スティバル (2月開催)	春いちばんふれあいフ ェスティバル実行委員 会・港区役所	ゆめホーム 「ゆめ」かなえ る港区民セ ンター	地域コミュニティの促進を 目的にしたイベント。主に 生涯学習推進員港区連 絡会が中心となり、作品 展示や舞台発表を実 施。
こどもパラダイス (3月開催)	みなとわんぱくまつり・ こどもパラダイス実行 委員会・港区役所	ゆめホーム 「ゆめ」かなえ る港区民セ ンター	地域コミュニティの促進を 目的にしたイベント。子ど も会等の団体が参画し、 様々な遊び体験を実 施。
うたごえ広場ぽっぽ (月1回開催)	ムーチャ・大阪市コミュ ニティ協会港区支部 協議会・ねこじゃらし 音楽事務所	ゆめホーム 「ゆめ」かなえ る港区民セ ンター	高齢者の健康増進を目的 に実施するイベント。

○防災

- 南海トラフ巨大地震による津波が来襲した場合に想定される浸水区域は、港地区復興土地区画整理事業区域内においては、盛土によるかさ上げを行っているため1.0m未滿の浸水区域が多いですが、弁天地域や波除地域につきましては、1.0m～2.0mの浸水が想定されています。
- また、市岡地域や南市岡地域の港地区復興土地区画整理事業区域外や波除地域の一部については、2.0m～3.0m程度の浸水が想定され、低層住宅が多いエリアについては、一時避難できる場所のさらなる確保が望まれます。

南海トラフ巨大地震発生時の想定浸水区域及び津波避難ビル等の指定状況図

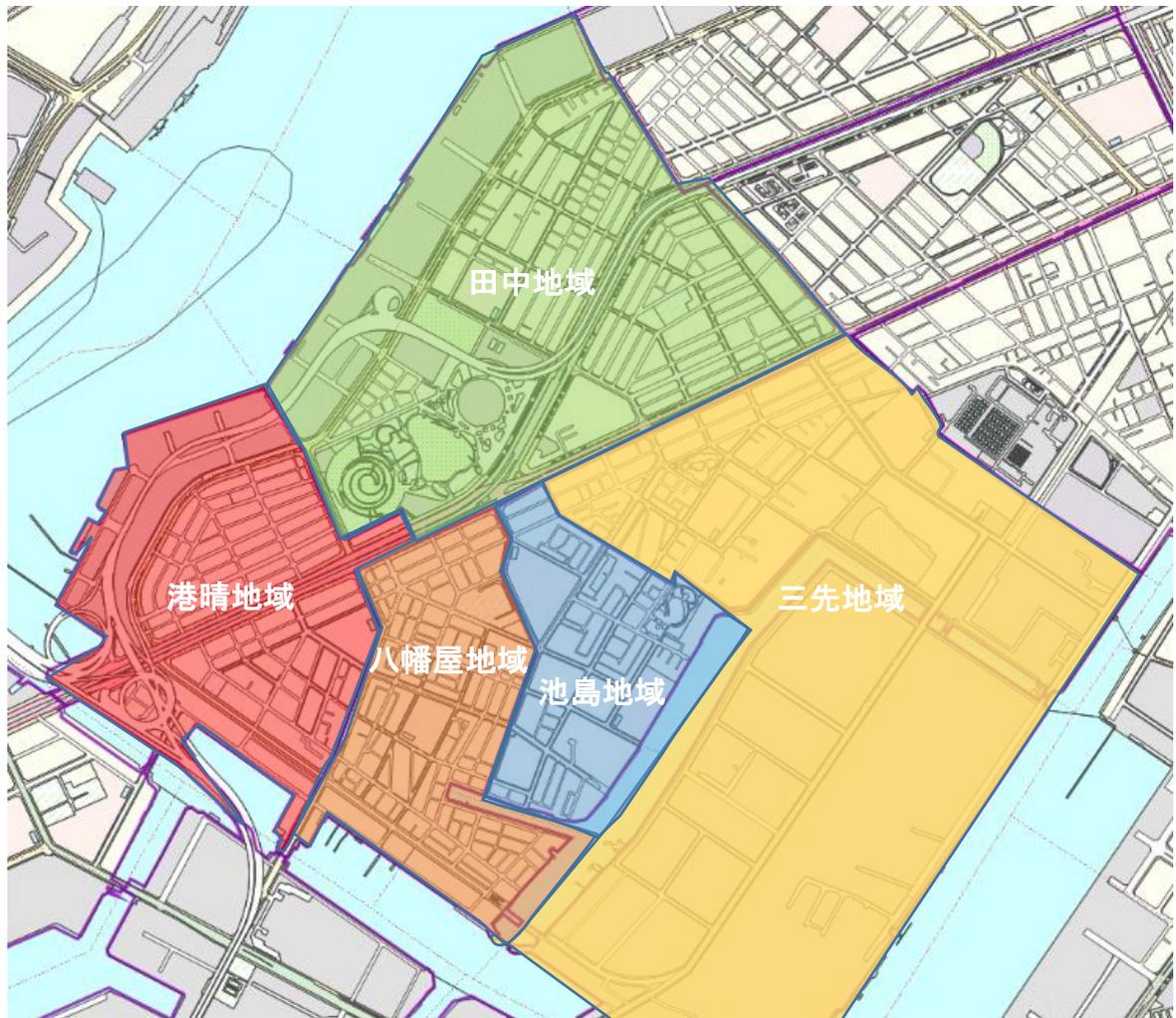


(画像出典：マップナビおおさか)

(3) 中部エリア

【中部エリアの対象地域】

田中地域、三先地域、八幡屋地域、池島地域、港晴地域



○中部エリアの概要

- 中部エリアは、Osaka Metro 中央線朝潮橋駅を中心として、総合公園である八幡屋公園が区民の憩いの場となっているとともに、大阪市中央体育館や大阪プールが整備され、国際的なスポーツ大会開催時などには多くの人々が訪れるエリアとなっています。
- みなと通以北の田中地域は、主に低層住宅が立ち並ぶ住居エリアを形成しています。また、中央大通とみなと通に挟まれた夕凧エリアは、商業地として賑わっていましたが、近年は周辺の人口減少に伴い、商業地としての賑わいは少なくなっています。

- みなと通以南の八幡屋、池島地域は、市営住宅等の団地群を形成しており、港地区復興土地地区画整理事業による基盤整備とあわせて、昭和46年度に池島地区が自治省のモデル・コミュニティ地区に指定され、近隣センターを中心とした良好な住宅エリアとしてのまちづくりを進めてきましたが、近年は、住民の高齢化が進行しており、商店街では空店舗も増加しています。
- 三十間堀入堀部については、令和元年度に締切堤防が完成し、防災上の課題が解消されたことから、今後は、締切堤防内の土地利用のあり方を検討していくこととしています。
- 福崎エリアは、臨港地区として物流倉庫や工場が稼働し、大阪港の港湾機能を担うエリアとなっています。

中部エリア概要図



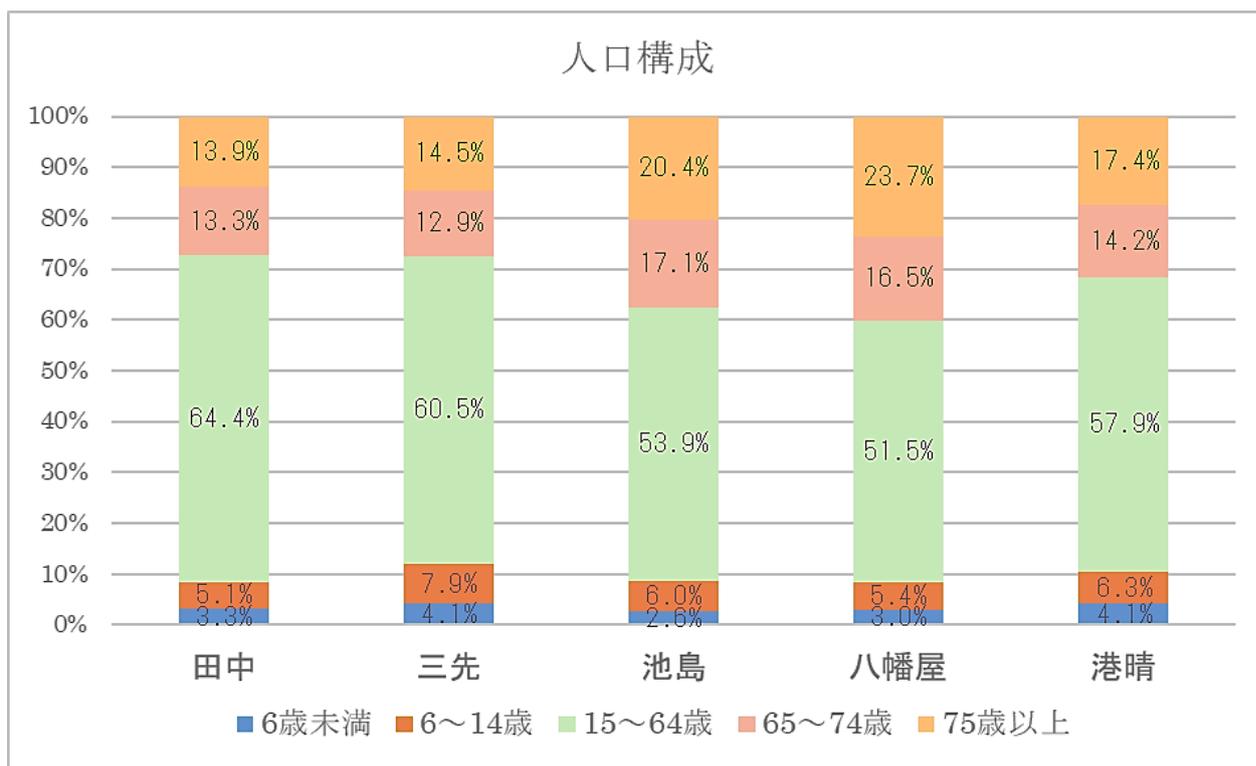
(画像出典：マップナビおおさかをベースに加工)

○人口動態

- 中部エリアを構成する5地域は、港地区復興土地区画整理事業により、2mもの盛土を伴う基盤整備とあわせて市営住宅等の建設が進められ、港湾事業従事者をはじめとした本市の発展を支えてきた人々の住宅供給エリアとして発展してきました。
- しかしながら、少子高齢化の影響を大きく受け、特に八幡屋地域や池島地域は、65歳以上の高齢者の割合が30%を大きく上回っています。
- 15歳未満の世代は、どの地域も10%前後と低い水準となっており、子育て世代の増加に資するまちづくりが必要となっています。

令和2年3月（住民基本台帳）地域別人口一覧表 (単位：人)

	田中		三先		池島		八幡屋		港晴	
6歳未満	3.3%	292	4.1%	278	2.6%	116	3.0%	159	4.1%	191
6～14歳	5.1%	457	7.9%	535	6.0%	263	5.4%	290	6.3%	294
15～64歳	64.4%	5,730	60.5%	4,079	53.9%	2,361	51.5%	2,756	57.9%	2,682
65～74歳	13.3%	1,182	12.9%	868	17.1%	751	16.5%	882	14.2%	660
75歳以上	13.9%	1,239	14.5%	980	20.4%	893	23.7%	1,267	17.4%	808
計		8,900		6,740		4,483		5,354		4,635

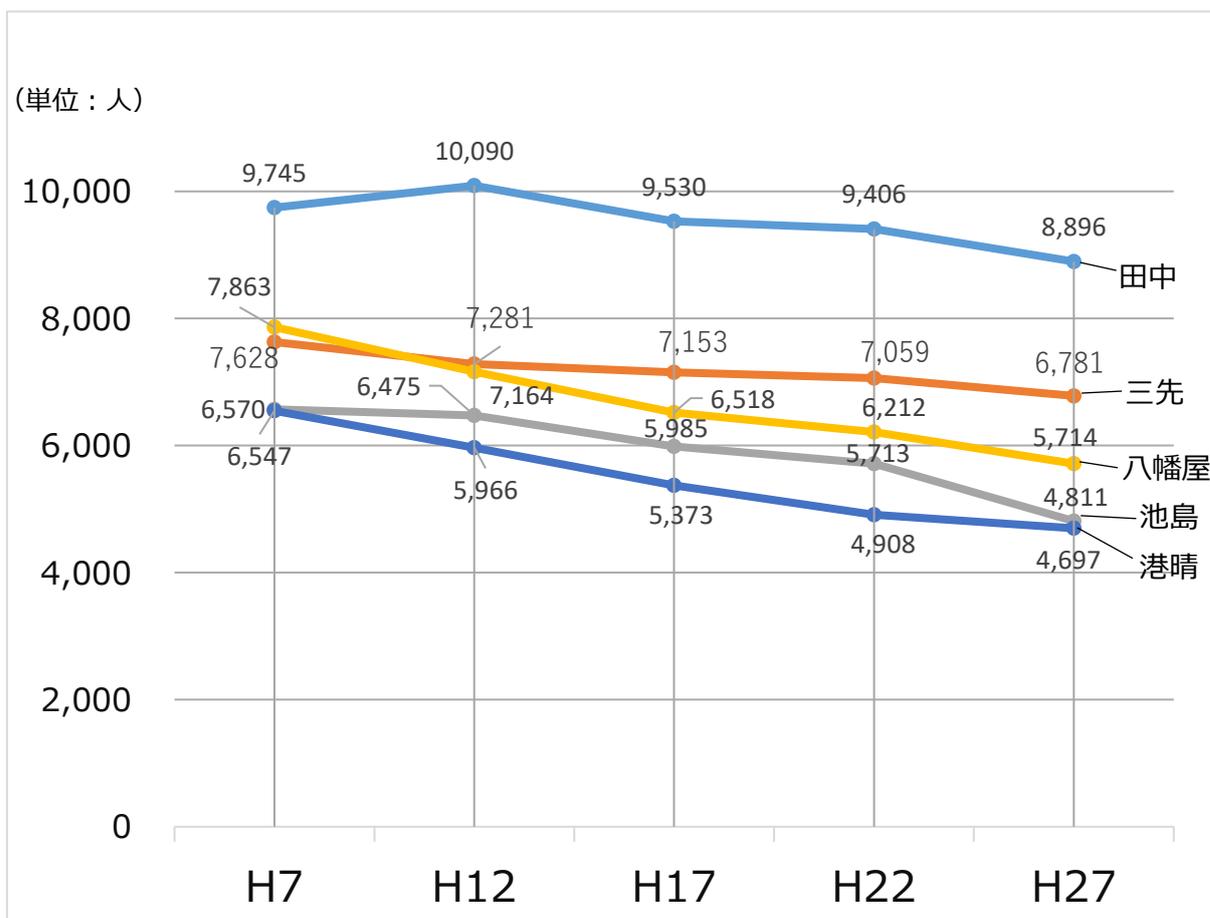


(出典：住民基本台帳人口)

地域別人口の推移（国勢調査結果）

（単位：人）

地域名	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
田中	9,745	10,090	9,530	9,406	8,896
三先	7,628	7,281	7,153	7,059	6,781
池島	6,570	6,475	5,985	5,713	4,811
八幡屋	7,863	7,164	6,518	6,212	5,714
港晴	6,547	5,966	5,373	4,908	4,697



（出典：国勢調査）

○小・中学校の状況

- 小学校は5校あり、田中小学校及び三先小学校の普通学級数は、全学年で複数学級を維持していますが、池島小学校、八幡屋小学校、港晴小学校の普通学級数は、全学年で1学級であり、少子化の影響を大きく受けています。

校名	普通学級							特別支援学級
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	
田中	2	2	2	2	2	2	12	4
三先	3	2	2	2	2	2	13	6
池島	1	1	1	1	1	1	6	5
八幡屋	1	1	1	1	1	1	6	4
港晴	1	1	1	1	1	1	6	2

(出典：令和2年度学校現況調査 令和2年5月1日現在)

- 中部エリアに立地する中学校は2校あり、港晴小学校は、築港地域にある築港中学校の校区になります。
- 中学校についても、小学校と同様に普通学級数の減少がみられますが、港南中学校については、区内で2番目に多い普通学級数を有しています。
- 港中学校の普通学級数は複数学級を維持していますが、築港中学校の普通学級数は全学年で1学級となっており、生徒数の減少が顕著になっています。

校名	普通学級				特別支援学級	(参考) 小学校区
	1年	2年	3年	合計		
港	3	3	2	8	6	池島、八幡屋
港南	4	4	4	12	6	田中、三先、市岡1~4
築港	1	1	1	3	1	港晴、築港

(出典：令和2年度学校現況調査 令和2年5月1日現在)

○市営住宅の状況

- 中部エリアについては、港地区復興土地区画整理事業において大規模なかさ上げ工事とあわせて、市営住宅の建設が進められ、港区における大規模な住宅供給エリアとしての役割を担ってきました。
- 中部エリアに立地する市営住宅については、多くが昭和 40 年代後半に建設されたものであり、大阪市営住宅ストック総合活用計画（令和 3 年 3 月）では、池島、八幡屋、三先団地のうち 950 戸で建替事業を計画しており、それ以外は、継続活用としています。

大阪市営住宅ストック総合活用計画（別冊）令和 3 年 3 月（中部エリア内を抜粋）

団地名（号館）	戸数	活用手法
池島（30～43）	420 戸	建替（Ⅰ）
八幡屋（1～14）	350 戸	
三先（6～9）	80 戸	
三先（1～5）	100 戸	建替（Ⅱ）
池島（1～2）	480 戸	継続活用
三先（10）	398 戸	
田中（1～3）	84 戸	
八幡屋第 2（1～9）	612 戸	
八幡屋第 3（1～2）	50 戸	
八幡屋第 4（1～2）	60 戸	
池島南（1）	233 戸	
八幡屋宝町（1）	107 戸	
八幡屋宝町第 2（1）	69 戸	
八幡屋宝町第 3（1）	87 戸	

※「建替（Ⅰ）」は計画期間前期の事業着手（建替事業説明会の実施）を、「建替（Ⅱ）」はそれ以降の事業着手をめざす。

事業着手時期については、状況に応じて変更となる場合がある。

○商店街

- 中部エリアにおける港区商店会連盟に加入している商店街は、八幡屋商店街、港中央市場商人会、夕凧中央商店会、八幡屋市場商業協同組合、幸運橋市場商業協同組合の 5 か所となっています。

○イベント等のにぎわい形成

- 中部エリアでは、八幡屋公園など公共空間において、多様なイベントが開催されています。

- また、八幡屋商店街では、八幡屋バルなどのイベントが定期的に行われ、継続的な地域活性化の取り組みが行われています。

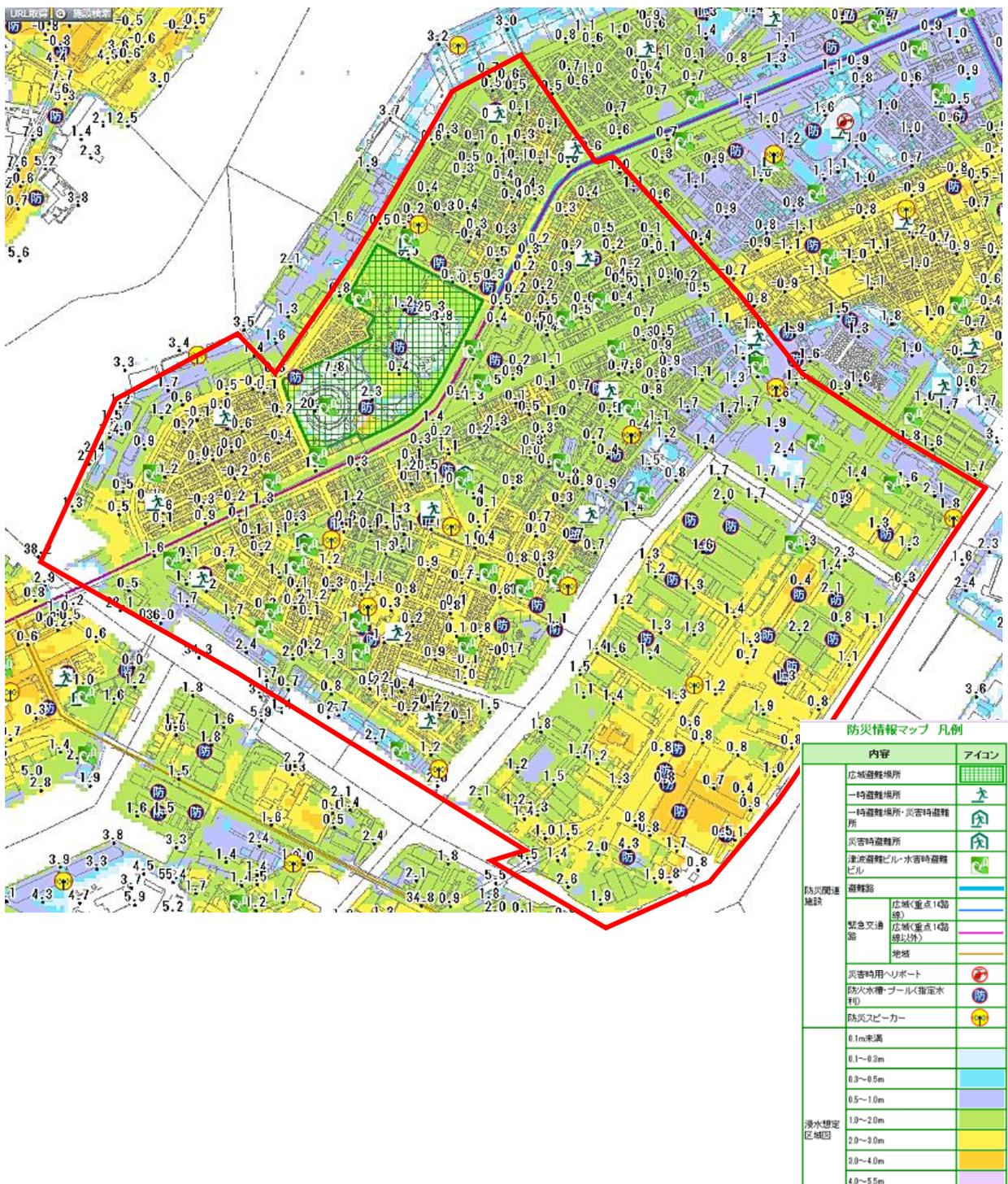
中部エリアで実施されている主なイベント

イベント名 (開催時期等)	主催	実施場所	イベント概要
八幡屋バル (年 2 回程度開催)	みなとまちかど音楽会実行委員会・八幡屋商店街振興組合	八幡屋商店街	八幡屋地域の活性化を目的とした地域主体のにぎわいづくりイベント
みなとスプリングスポーツフェスタ (5月開催)	みなとスプリングスポーツフェスタ実行委員会・港区役所	丸善インテックアリーナ大阪	地域コミュニティの促進を目的としたイベント。区内で活動するスポーツチーム等が参画し、スポーツ体験等を実施。
みなとわんぱくまつり (9月開催)	みなとわんぱくまつり・こどもパラダイス実行委員会・港区役所	八幡屋公園	地域コミュニティの促進を目的としたイベント。主に子ども会が中心となり、模擬店等を実施。
港区民まつり (10月開催)	港区民まつり実行委員会・港区役所	八幡屋公園	地域コミュニティの促進を目的としたイベント。区内の各種団体等が参画しステージや模擬店を実施。
MINATO 芸術フェスティバル (5月及び10月開催)	MINATO 芸術フェスティバル実行委員会	八幡屋公園・中央体育館	音楽イベントを中心に芸術系ジャンル全般にスポットをあて、八幡屋公園・中央体育館を核に港区全体のフェスティバル開催をめざして実施。
池島ふれあいまつり (11月開催)	池島地域活動協議会	池島公園	毎年11月23日に開催され、地域あげてのまつりとなっている。
みなとふれあい祭り盆踊り (9月頃開催)	大阪未来皆等会	入舟公園	地域住民の交流を目的に実施する盆踊り。

○防災

- 南海トラフ巨大地震による津波が来襲した場合に想定される浸水区域は、エリア全域にわたって 1.0m~2.0m の浸水が想定されています。
- また、港晴地域の全域及び八幡屋、池島地域の一部は、2.0m~3.0m 程度の浸水が想定され、低層住宅が多いエリアについては、一時避難できる場所のさらなる確保が望まれます。

南海トラフ巨大地震発生時の想定浸水区域及び津波避難ビル等の指定状況図



(画像出典：マップナビおおさか)

(4) エリア別取組みの方向性

エリアの現状やニーズ調査等の結果等を踏まえ、SWOT 分析の手法を用い、内部環境の「強み」「弱み」、外部環境の「機会」「脅威」について整理を行うとともに、クロス分析により各機能に対し戦略を立て、東部及び中部エリアの取組みの方向性を設定します。

○東部エリア

		外部環境		
		○ 機会	⊖ 脅威	
<p>※SWOT 分析とは 内部環境：「強み (Strength) 」 「弱み (Weakness) 」 外部環境：「機会 (Opportunity) 」 「脅威 (Threat) 」 という 4 つの視点から、自らが置かれている環境を整理し、戦略を検討していくための分析方法</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪万博が決定し湾岸部の注目度が高まっている。 ・インバウンドなどによる来訪者が増加 ・都心への人口回帰の傾向が強まっている ・待機児童の解消や児童虐待の撲滅など子育て環境を確保したまちづくりの要請が強まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ大地震による津波や台風による高潮被害のリスクがある。 ・日本全体が人口減少下にあり、地域間の競争が激しくなっている。 ・梅田や難波などの都心部の開発が進行し、湾岸部の集客性が相対的に弱まっている。 	
内部環境	S 強み	<ul style="list-style-type: none"> ・弁天町駅は JR とオオサカメトロの結節点であり、交通便利性が高く、大阪ベイタワーや大阪みなと中央病院などの都市機能が集積している ・市岡商業高校跡地などの開発可能な用地がある。 ・各地域で特色ある取組みがされており、良好な地域コミュニティが残っている。 	<p>【強みを活かして機会を拡大・持続する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪ベイタワーを拠点として湾岸部の玄関口である弁天町駅周辺の都市機能のさらなる拡充を図る。 ・大規模開発時などに保育所や子育て層をターゲットとした施設等の整備を誘導するなど、子育て層が住みやすいまちづくりを進める。 	<p>【強みを活かして、脅威に対処する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部へのアクセスが容易で利便性の高い立地を活かしつつ、良好な地域コミュニティをベースとしたあらゆる世代が住みやすく防災力の高いまちづくりを推進し、他エリアとの差別化を図る。
	W 弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 43 号や中央大通等の幹線道路が地域を分断。 ・港区復興土地地区画整理事業区域外は、かさ上げ整備がされていない。 ・波除地域などでは、工場から住宅への転換が進み、住工混在が進行。 ・弁天ふ頭周辺の水辺のポテンシャルがまちづくりに活かしていない。 	<p>【弱みを克服し、機会をつかむ戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道 43 号のバリアフリー化を推進し、地域間のつながりを強めていく。 ・ものづくり工場の操業と住環境の確保が両立するための取り組みを進める。 ・まちと海をつなぐ水上アクセスの拠点として弁天ふ頭の利活用を促進する。 	<p>【弱みと脅威を最小化する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な基盤整備を着実に進めていく。 ・地域コミュニティを活かした避難訓練の継続など、災害に強いまちづくりを着実に進める。



都心と湾岸をつなぐ交通結節点としての立地を最大限に活かした都市機能の強化とにぎわい・魅力の創出を図るとともに、都市居住のもつ利便性の高さで良好な地域コミュニティをベースとした災害に強い安全・安心が確保されたまちづくりを推進する。

○中部エリア

		外部環境		
		○ 機会	⊖ 脅威	
<p>※SWOT 分析とは 内部環境：「強み (Strength) 」 「弱み (Weakness) 」 外部環境：「機会 (Opportunity) 」 「脅威 (Threat) 」 という 4 つの視点から、自らが置かれて いる環境を整理し、戦略を検討していく ための分析方法</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪万博が決定し湾岸部の注目度が高まっている。 ・インバウンドなどによる来訪者が増加 ・都心への人口回帰の傾向が強まっている ・待機児童の解消や児童虐待の撲滅など子育て環境を確保したまちづくりの要請が強まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ大地震による津波や台風による高潮被害のリスクがある。 ・日本全体が人口減少下にあり、地域間の競合が激しくなっている。 ・梅田や難波などの都心部の開発が進行し、湾岸部の集客性が相対的に弱まっている。 	
内部環境	S 強み	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアの中心に八幡屋公園が立地し、地域住民の憩いと癒しの場を形成。 ・中央体育館等では国際的なスポーツ大会や大規模イベントが開催される。 ・八幡屋商店街や各地域で特色ある取り組みを通じて良好な地域コミュニティが形成されている。 ・今後、市営住宅の建替えによる余剰地の創出が見込まれる。 	<p>【強みを活かして機会を拡大・持続する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡屋公園を中心として、子育て層が魅力を感じる良好な住環境の形成を促進する。 ・中央体育館等の集客力と周辺の商店街等の取組との相乗効果により、エリアの魅力を高める取り組みを推進する。 	<p>【強みを活かして、脅威に対処する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡屋公園のもつ憩いの空間と良好な地域コミュニティを活かした地域防災力の向上とあらゆる世代が住みやすいまちづくりを推進し、他エリアとの差別化を図る
	W 弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域と比べて人口の減少が進行し、空家や空店舗が目立つ状況となっている。 ・空地や三十間堀入堀部などの低未利用地が増加している。 	<p>【弱みを克服し、機会をつかむ戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低未利用地の活用を推進し、特に子育て層の増加に資するまちづくりを推進する。 	<p>【弱みと脅威を最小化する戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な基盤整備を着実に進めていく。 ・地域コミュニティを活かした避難訓練の継続など、災害に強いまちづくりを着実に進める。



八幡屋公園を中心としたエリアの魅力づくりと良好な地域コミュニティをベースとした商店街等の活性化の取組みとの相乗効果により、エリア全体の「リ・ブランディング」※を進め、特に若い世代や子育て層が魅力を感じ定住する流れを生み出し、人口増加につながるまちづくりを推進する。

※今ある地域資源等を活かしながら、新しい時代や区民ニーズに適合したまちへと再構築することにより、魅力をさらに高めること